

第4学年A組 総合的な学習の時間（はばたき学習）指導案

授業者 井上 駿太

研究協力者 細川 和仁

- 1 単元名 きらり みんなの笑顔があふれるまち
～みんなが笑顔になるためによりよいかかわり合いをもとめて～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

子どもたちは、3年生の総合的な学習の時間「通町商店街の『いいね!』をみつけよう」において、見学を通して通町商店街のよさについて調べた。調べたことをお店ごとにランキング形式でまとめる活動を通して、商店街のよさには、働く人の思いや願いが込められているという概念を獲得した。しかし、作成したランキングをもとに作成したポスターを友達同士で見合うにとどまり、新たな課題を設定するまでは至らなかった。また、本校における障害理解学習である「よつば学習」では、特別支援学校の児童が用意したゲームを一緒に行い、交流を楽しむことができた。しかし、相手の特質や思いを考慮して、その人に合わせた接し方を考えることが十分にできなかった。

(2) 単元について

本単元では、前述の児童の実態から、一人一人がもつ特質やそれに対してどう向き合っていくかという思いに着目し、様々な特質をもった人と関わり合いながら、接し方を考える活動を通して、一人一人に特質の違いがあることを理解し、自分と違った特質をもつ人との関わり方について考えを深めることができると考える。

同じ学級や学年の友達、特別支援学校の児童との関わりを通して、一人一人に特質の違いがあることに気づき、それを理解し合い、折り合いを付けたり助け合ったりしながら活動する中で、「**仲間のよさを見付け、互いのよさを活かしながら活動する**」という**資質・能力**を高めていくことをねらいとして、本単元を設定した。

(3) 指導について

「課題の設定」では、「自分はA? B? どっち? ゲーム」や特別支援学校の教師からの講話などを通して、一人一人好き嫌いや得手不得手などの特質の違いがあることに気づき、その中で、様々な特質をもつ人とどのように関わっていくことができるかという課題を設定できるようにする。

「情報の収集」では、一人一人が特質を活かして、みんなが楽しめるお祭りを企画する活動を設定する。出店の内容や担当を決める中で、同じ出店を開く友達とお互いの特質を理解し合えるようにする。また、相互に出店のレビューを書く活動を設定することで、お客さん役の友達の特質を理解することができるようにする。

「整理・分析」では、友達に書いてもらったレビューから、出店をどう改善するか話し合う活動を設定する。その中で、友達の特質と自分たちの特質の両方を念頭に置き、折り合いを付けながら改善に取り組むことができるようにする。

「まとめ・表現」では、話し合ったことをもとに、改善した出店を再び運営する活動を設定する。繰り返し出店を改善しながら、よりよい出店を企画する活動を通して、一人一人の特質を理解し合い、折り合いを付けたり助け合ったりすることの大切さに気付くことができるようにする。

3 単元の目標

- (1) 同じ学年の友達や特別支援学校の友達との関わりを通して、一人一人に特質の違いがあることを理解することができる。 (B-e)
- (2) 同じ学年の友達や特別支援学校の友達との関わりを通して、一人一人の特質を活かすために折り合いを付けたり助け合ったりしながら活動することができる。 (D-e)
- (3) 同じ学年の友達や特別支援学校の友達との関わりを通して、一人一人の特質の違いを理解し、それを活かしたり補い合ったりしながら生活しようとする。 (D-b)

4 単元の構想

3年総合 「通町商店街の『いいね!』をみつけよう」

時間	学習活動	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	1 まちのみんなのことを知ろう (1)これまで過ごしてきた経験から、自分のまわりにはどんな人がいるか想起する。	・自分たちの周りには様々な人がいることを自覚できるように、これまでの町探検や日常生活など、外に出たときのことを想起する場を設ける。	・これまでの学習や見学を通して、学習の課題を見付けようとしている。〈A-a〉
2	(2)「自分はA?B?どっち?ゲーム」を通して、自分の好き嫌いや得手不得手などについて、友達と比べる。	・同じ4年生でも様々な考えを持つ人がいることに気付くように、その選択肢を選んだ理由を発表する場を設ける。	・どんな人であっても、一人一人違った特質をもっていることに気付いている。〈D-h〉
3	(3)特別支援学校の教師からの講話を通して、一人一人に違った特質があることを理解する。	・自分と周りの人との特質の違いを自覚できるよう、「普通」という言葉の意味に着目するよう促す。	・様々な特質をもつ人とどのように関わっていくか課題意識をもつことができる。〈B-b〉
4 5	(4)自分はどんな人なのか学級の友達と話し合う。	・友達との特質のずれに着目できるように、友達との共通点や相違点を問う。	
6	2 みんなで楽しむお祭りを企画しよう (5)学級の個性を活かした「4学年祭」を企画する。	・違う特質をもった人と関わる機会を設けるために、グループの編成を意図的に行う。	・自分の特質を理解し、それを活かして活動に取り組もうとする。〈C-c〉
7 8 9	(6)学級ごとにグループに分かれて、お祭りの出し物を準備する。	・準備の中で様々な互いの特質に気付くことができるよう、その時間の友達の考えや様子を振り返るよう促す。	
10	(7)学級でプレオープンを行い、お互いにレビューを付ける。	・学年でのお祭りに向かうことができるように、プレオープンの前に「みんなが楽しめる」という視点を確認する。	・みんなが楽しめるという視点に沿って、レビューを書いている。〈B-e〉

11 本 時 12 13	(8) レビューを基に、出し物の改善策を考える。	・グループのメンバーの特質も活かすことができるように、「みんなが楽しめる」という視点を確認する。	・友達の考えと自分たちの考えを折り合いを付けながらまとめている。 〈B-c〉 〈D-b〉
14	(9) 学年で「4 学年祭」を行い、お互いにレビューを付ける。	・学級にはない特質に着目できるように、「みんなが楽しめる」という視点を確認する。	・みんなが楽しめるという視点に沿って、レビューを書いている。〈B-e〉
15 16	(10) レビューを基に、出し物の改善策を考える。	・特別支援学校の友達の特質に着目できるよう、自分との特質の違いを考えるよう促す。	・特別支援学校の友達の特質を理解している。〈D-a〉
17	(11) 特別支援学校の教師からの講話を通して、特別支援学校の友達について理解を深める。		
18 19 20	(12) 特別支援学校の友達を招いた「4 学年祭」を企画する。	・特別支援学校の友達の特質に着目できるよう、今までの出店をどう改善していくべきか話し合う場を設ける。	・自分の特質を理解し、それを活かして活動に取り組もうとする。〈C-c〉
21 22	(13) 特別支援学校の友達を招いて、「4 学年祭」を行う。	・自分たちの特質も活かすことができるように、「みんなが楽しめる」という視点を確認する。	
23	(14) これまでの活動を振り返り、「みんなで楽しむ」ために必要なことを考える。	・多様な考えに気付くことができるように、まとめてきたシートを見返しながら今までの活動を振り返る場を設定する。	・違った特質をもった人のことを理解し、共に生活しようとする。〈D-a〉

◎ 本単元で育む主な資質・能力

一人一人に特質の違いがあり、それを理解し合い、折り合いを付けたり助け合ったりしながら共に生活することの大切さについて考える。
〈C-c, B-c, D-b〉



5年生 きらり みんなの笑顔があふれるまちⅢ
～働かってどんなこと?～

5 本時の実際 (11/23)

(1) ねらい 友達からのレビューに着目し、プレオープンでの自分たちの出店の運営や友達の考え方について話し合う活動を通して、自分たちのやりたいことと折り合いを付けながら出し物の改善策を考えることができる。

(2) 展 開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評 価
15	<p>1 前時のプレオープンを振り返り、良かった点やうまくいかなかった点を出し合う。(グループ→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな笑顔で楽しんでくれていた。 ・出し物が簡単すぎて、みんながすぐに成功していたつまらなそうだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもって学習に取り組めるように、うまくいかなかった点や改善したいと思う点にも着目するよう促し、本時の課題を設定する。
<p>課題 みんなが楽しめるお祭りにするために、出店のどこを見直すとよいか。</p>		
15	<p>2 友達からのレビューを読み、改善すべき点をまとめる。(グループ)</p> <p>【改善点が見つけられない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しかったと書いてくれた。 ・自分たちにとっては満足のいくお祭りだった。 <p>【友達からのレビューが、自分たちの考えと一致し、改善すべき点を見つけている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちと同じように、簡単すぎたからもっと難しくしてほしいという意見があった。 <p>【レビューから、自分たちにはない新たな視点を見つけている】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん並んでいて、待ち時間が長いと考える人もいた。 ・他の店も同じような出し物で、お客さんが飽きてしまったようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の特質を考慮しながらレビューを読むことができるように、根拠となる思いや願いに着目するよう促す。 ・改善すべき点を見付けることに難儀しているグループには、星の数や他の出店の取組に着目するよう促す。 ○自分たちにはない新たな視点の価値に気付くことができるように、自分たちの思いや願いとの相違点は何か問いかける。 ・改善すべき点とその根拠を次の学習で生かせるように、項目ごとにシートにまとめる場を設定する。
10	<p>3 友達から情報収集したりグループで話し合ったりして、改善策を見付ける。(グループ→全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レビューを受けて、簡単なレベルと難しいレベルの二つを用意することにした。 ・待ち時間を短くするために、ブースをもう一つ作って、二人同時に遊べるようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の感想と自分たちの思いや願いに折り合いを付けて改善策を考えることができるように、「みんなが楽しめる」という視点を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友達からのレビューを受けて、自分たちのやりたいことと折り合いを付けながら出し物の改善策を考えることができる。 (発表・シート)</p> </div>
5	<p>4 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の特質の違いに気付くことができるように、お客さん役の友達がどんな考えや行動をしていたのか振り返る視点を提示する。

令和5年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）実践・研究計画

部 員	○稲垣 勇介、柴田 省吾、井上 駿太、山田 幹
-----	-------------------------

研究テーマ
自ら見いだした課題について、よりよい方法を用いて探究し、自分にとっての答えとしての概念をつくり出していく子どもを育む学び

1 研究テーマについて

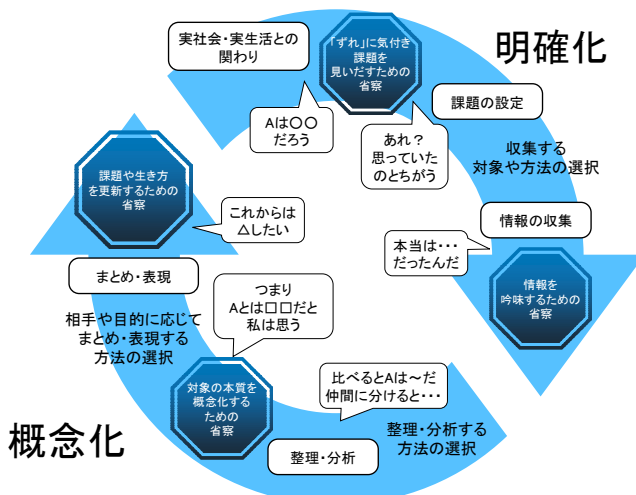
昨年度までの実践で、探究的なスパイラルの中で、「比較」「分類」「順序付け」「理由付け」などの考えるための技法を活用しながら、分かったことを自分の言葉で意味付けしていくことで“自分にとっての答え”としての概念を形成していく子どもの姿が見られた。しかし、現時点で形成した概念を基に、新たに探究の見通しをもったり他者から得たい情報を焦点化したりしていくことには課題が見られた。

こうした成果と課題を踏まえ、はばたき学習部の研究テーマは今年度も継続していくこととし、子どもが自分の言葉で表現したものを基に、一人一人の学びの道筋を見取り、新たな探究の方向を見いだす支援をしていく。

- はばたき学習で目指す自律した子どもの姿
- ・「人・もの・こと」と関わりながら、予想や理想、思い込みと現実との「ずれ」に気付き、自ら課題を見いだす姿
 - ・よりよい方法や視点を用いて探究する中で対象を明確に捉えていく姿
 - ・対象や解決方法について学んだことを自分の言葉で意味付け、次の学びに活かす姿

新たな探究の見通しをもつことについて、現時点で形成している概念から納得できた点と問題点を自覚できるようにすることで、自覚した問題点から今後の探究の方向性を見いだせるような手立てを講じていく。さらに、概念形成した学習対象との関わりの中で得た達成感を振り返ることで、学ぶ有用性を味わい探究する意味や価値を見いだすことにつながるだろう。

得たい情報の焦点化については、誰のどのような考えに影響を受けたかを明確化できるようにすることで、追究したい分野の焦点化を図り、他者の考えを生かして新たな概念を形成する協働的な探究のよさを見いだすこともできるように単元構想を工夫する。



図：はばたき学習 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 〈○は具体的な取組の例〉

- 探究する意味や価値、協働的に探究するよさを見いだしながら、新たな探究に向かっていくための支援の工夫
- 現時点で形成した概念から得た納得できる点と問題点を自覚するための視点を獲得できるように、考えるための技法を活用した概念共有の場を設定する。
 - 影響を受けた考えを明確化して追究したい分野を焦点化するために、効果的な思考ツールやICT機器の活用ができるような単元構想の工夫をする。

3年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	先行経験を活かして対象とかかわり，自分で問題を見付ける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	教師の支援のもとに，疑問に感じたことを課題につなげる。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順を，学級やグループで相談しながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	課題に応じた情報収集方法（インタビュー，図書資料，インターネット等）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中から大切な情報を選択する。
f まとめ 表現 ＜B状況知・方法知＞	言語，表，グラフ，図，音楽など様々なものから選択して，相手に伝わりやすい方法，自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	写真や図を用いてキーワードを示しながら説明する。
h 学ぶ意味や 価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前との自分の考えや意見の違いに気付く。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからのことを考えながら，今，自分にとって必要なことは何かを考える。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	対象となる人・自然・社会に適応したマナーや方法でかかわる。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いをもって，自分なりにできる働きかけをする。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気付き，これからの生活について考える。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	異なる意見や他者の考えを受け入れる。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	互いのよさを見付け合いながら，協力して活動する。
c 環境 (人，社会，自然) ＜D生き方・考え方＞	地域を見直し，そのよさを感じながら，対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- 各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して，実社会や実生活における事象に着目し，多様な角度から考えたり，実社会や実生活の文脈，自己の生き方と関連付けて考えたりする。

4年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	先行経験を活かして対象とかかわり，自分で問題を見つける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	教師の支援を生かしながら，疑問に感じたことを課題につなげる。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順を学級やグループで相談しながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	課題に応じた様々な情報収集方法（インタビュー，図書資料，インターネット等）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中からキーワードを中心に大切な情報を選択する。
f まとめ・表現 ＜B状況知・方法知＞	言語，表，グラフ，図，音楽など様々なものから選択して，相手に伝わりやすい方法，自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	写真や図を用いてキーワードを示しながら説明する。
h 学ぶ意味や価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前との自分の考えや意見の違いに気付く。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからの学習内容や方法を考えながら，自分にとって必要なことを決める。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	対象となる人・自然・社会に適応したマナーや方法でかかわる。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いをもって，これからの生活において自分なりにできる働きかける。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気付き，これからの生活について考える。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	異なる意見や他者の考えに耳を傾け，受け入れる。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	仲間によさを見付け，互いによさを活かしながら活動する。
c 環境 (人，社会，自然) ＜D生き方・考え方＞	地域を見直し，そのよさを感じながら，対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- 各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して，実社会や実生活における事象に着目し，多様な角度から考えたり，実社会や実生活の文脈，自己の生き方と関連付けて考えたりする。

5年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	目的に応じて対象に対するかかわり方を変え、吟味・修正しながら、問題を見つける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	自分や友達の問題を大切にしたり、予想にもとづいたりしながら、課題を設定する。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順について自分で考えたり、友達と相談したりしながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	自分が調べたいテーマに応じて様々な情報収集方法（インタビュー、図書資料、インターネット等）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中からキーワードを中心に大切な情報を選択する。
f まとめ・表現 ＜B状況知・方法知＞	言語、表、グラフ、図、音楽など様々なものから選択して、相手に伝わりやすい方法、自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	発表会や情報交換の規模、発表の仕方に応じた準備を整えたり、写真や図を用いてキーワードを示しながら説明したりする。
h 学ぶ意味や価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前と後での自分の考えや意見の違いに気付き、自らの成長ととらえる。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからの学習内容や方法を吟味しながら、自分にとって必要なことを決める。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	計画にもとづいて対象となる人・自然・社会の様子に応じてかかわり解決する。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いをもって自分や周囲に対して適切に働きかける。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気付き、成長をこれからの自分の生活に生かしていこうとする。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	学習を通して共通性、法則性を見付けたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりする。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	仲間よさを見付け、互いの知恵を生かしながら活動する。
c 環境 (人, 社会, 自然) ＜D生き方・考え方＞	自分たちの生活を見直し、そのよさを感じたり発見した課題を整理したりしながら対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- ・ 各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、実社会や実生活における事象に着目し、多様な角度から考えたり、実社会や実生活の文脈、自己の生き方と関連付けて考えたりする。

6年生の総合的な学習の時間で身に付けたい「資質・能力」

a 問題発見 ＜A問題発見力＞	目的に応じて対象に対するかかわり方を変え、吟味・修正しながら、問題を見つける。
b 課題設定 ＜B状況知・方法知＞	自分や友達の問題を大切にしたり、予想にもとづいたりしながら、課題を設定する。
c 計画 ＜B状況知・方法知＞	解決の方法や手順について自分で考えたり、友達と相談したりしながら立てる。
d 情報収集 ＜B状況知・方法知＞	自分が調べたいテーマに応じて様々な情報収集方法（インタビュー、図書資料、インターネットなど）で情報を集める。
e 整理分析 ＜B状況知・方法知＞	収集した情報の中からキーワードを中心に、自分の課題解決に大切な情報を選択する。
f まとめ・表現 ＜B状況知・方法知＞	言語、表、グラフ、図、音楽など様々なものから選択して、相手に伝わりやすい方法、自分自身の考えがまとめやすい方法で表現する。
g 報告・発表・ 討論 ＜B状況知・方法知＞	発表会や情報交換の規模、発表の仕方に応じた準備を整えたり、写真や図を用いてキーワードを示しながら説明したりする。
h 学ぶ意味や価値 ＜D生き方・考え方＞	学習を始める前と後での自分の考えや意見の違いに気付き、自らの成長ととらえる。
a 意思決定 ＜C実践力・実行力＞	これからの学習内容や方法を吟味しながら、今、自分が取り組んでおかなければならないことや必要なことを決める。
b 課題解決 ＜C実践力・実行力＞	計画にもとづいて対象となる人・自然・社会の様子に応じてかかわり解決する。
c 実践力 ＜C実践力・実行力＞	自分の願いを明確にして、自分や周囲に対して適切に働きかける。
d 生き方 ＜D生き方・考え方＞	自分のがんばりやよさに気付き、成長をこれからの自分の生活に生かしていこうとする。
a 受容 ＜D生き方・考え方＞	学習を通して共通性、法則性を見付けたり、異なる意見や他者の考えを受け入れたりする。
b 協働 ＜D生き方・考え方＞	仲間よさを見付け、互いの知恵や自他の学びの成果を生かしながら活動する。
c 環境 (人, 社会, 自然) ＜D生き方・考え方＞	自分たちの生活を見直し、そのよさを感じたり発見した課題を整理したりしながら対象に働きかける。

総合的な学習の時間の学びを深める「見方・考え方」

- 各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、実社会や実生活における事象に着目し、多様な角度から考えたり、実社会や実生活の文脈、自己の生き方と関連付けて考えたりする。